

【出題意図】

文章から設問にあった内容を読み取ることができる思考力（問 1）、それを身の回りのものにあてはめて、なりたちや効果を説明できる思考力・判断力（問 2）、そして、これらを文章であらわす表現力（問 1、2）を評価するための小論文問題となっている。

課題文は、創造とは、ゼロから何かを生み出すことではなく、既存のものの組み合わせによって生み出すことができる、という趣旨の文章である。長文を記述させる問 2 では、「組み合わせで創造がうまくいった」作品、製品について、何が成功のコツであるのか、どんな効果があったのか、自分自身で考え、論じて導き出すことを意図した。身の回りのものに対する興味関心の深さや観察力・洞察力も期待されている。

【採点基準】

問 1

文末から 3 行目にある「つまり、創造とは」以下の内容を用いる。問いの文章に「創造とは」、「創造と呼ぶ行為」とあるのがヒントである。創造に必要なこと（素材を組み合わせること）と、どうすること（何をどう組み合わせるかというその方法にこそ）の両方を含む必要がある。文章をそのまま引用すると 60 字を越える可能性があり、問いに答えるため欠かすことができない要素を厳選して文章としてまとめる。

問 2

以下の点を採点のポイントとする。

- ・対象は、何と何を組わせたものか説明できているか
- ・組み合わせる際にうまく機能させるため何を工夫したかが説明されているか。
- ・組み合わせたことによる効果を説明できているか。
- ・記述した事実、意見等が妥当であるか。
- ・理路のとった文章になっているか。
- ・文字数は要求範囲内か（700 字・28 行の 8～9 割以上が目安、最低 22 行以上）
- ・誤字脱字はないか。

【解答例】

問 1

- ① 他の学生と知り合いになるまたとない機会である。
- ② 周囲に座った学生たちと広範囲にわたる話題に花が咲く。
- ③ 日本や研究のことを聞かれ、逆に今まで知らなかった点を勉強した。
- ④ 友達ができ会話が楽しくなり、食事の場が大切な生活の場となった。

問 2

個別の解答となるため解答例は公開しない。

盛岡短期大学部 生活科学科食物栄養学専攻 令和8年度 学校推薦型選抜

【出題意図】

食に関する課題に対して，知識や思考力、判断力を駆使して根拠に基づく解決策を文章で表現することができるか総合的に判断する。

【採点基準】

問1 誤字脱字が多い場合は，数に応じて減点する

問2

- ① 資料（２）の家族と食事を共にすることの『良い点』が１つ以上上げられていること
- ② 友達や家族等と食事を共にすることの『良い点』が上げられていること
- ③ 現代社会における「共食の回数を増やす」ための方法ついて，自分の考えを述べていること
- ④ 600字以内540字（9割）以上書いていること
- ⑤ 誤字脱字が無いまたは，少ない。
 - ・ ここまでクリアできていれば，約80%以上
 - ・ その他，知識，思考力，判断力，表現力に優れていれば加点する
- ④ 問に関係ないことが書かれていたら，減点する
- ⑥ 誤字脱字が多い場合は，数に応じて減点する

【解答例】

問 1

創造とは無から有ではなく既存の素材の組み合わせであり、何をどう組み合わせるかというその方法に、創造と呼ぶ行為がある。(58 字)

問 2

個別の解答が予測されるため、解答例は示さない。